

## 今こそ獣医学教育学会の立ち上げを

政岡俊夫<sup>†</sup> (麻布大学名誉学長)

全国大学獣医学関係代表者協議会(以下、全獣協)会長及び公益社団法人 日本獣医学会理事長の連名で、「日本の獣医学部の質は落ちている」という山本幸三特命担当大臣の発言について、これまでの獣医学教育改善への取組みを説明する文書が平成29年6月8

日付で発出されているが、獣医学教育の充実・改善に携わってきた一人として自戒を込めて私見を述べさせていただく。

近年のわが国の獣医学教育の充実・改革への取組みは、文科省において平成20年11月に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が設置され、当会議において平成23年3月に「今後の獣医学教育・充実方策等について」と題して意見の取りまとめが公表され、この第1期取りまとめでは「国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程」が提示された。

また、平成24年3月には第2期の会議が始まり、同年9月には「国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程の推進に向けた課題の整理」が行われ、18回の会議を経て平成26年6月には「議論のまとめ」が公表され、足かけ7年に及ぶ調査研究の末、わが国における獣医学教育の国際水準の実施に向けた改善・充実に関する方策が提示された。

この調査研究協力者会議に前後して、日本獣医学会においては平成19年4月の第143回学会で獣医学教育の充実に向けた研究会が発足し、この研究会は平成21年4月の第147回学会で、獣医学教育改革委員会が設置されたのを機にその活動が当該委員会に受け継がれた。その後、平成28年9月(第159回学会)までに12回の獣医学教育改革シンポジウムを開催し、国内外の獣医学教育における現状と課題及び充実・改革への取組み等について研究発表が行われた。

一方、獣医学教育に携わる16大学で構成する全獣協では、文科省協力者会議の第1期の取りまとめを受け、大学教育の質の確保に向けた対応は、獣医学教育を担う

われわれ自身の問題であるという認識に立ち、教育の質の確保と学生の質の保証制度を確立した。この次世代の有用な人材を育成することは、獣医学教育の責務を担う者の課題であること、またこの課題を解決するための惜しみない努力を果たすことを「新しい獣医学教育の方向性と獣医学教育者の責務に関する声明」と題して平成23年9月に公表し、獣医学教育の充実・改善に取り組むことを社会に約束した。

これらの取組みを第三者的立場より検証するため、公益財団法人 大学基準協会は平成28年5月に「獣医学教育に関する基準」を改訂し、他のどの分野にも先駆けて獣医学教育分野の第三者評価に着手した。一方、公益社団法人 日本獣医師会は、学術・教育・研究委員会をはじめ各部会等において獣医学教育の充実・改善への取組みに対して、数々の助言・提言及び要請活動を行ってきた。

このように学協会をはじめ獣医学・獣医療に関連する諸団体等による獣医学教育・獣医師養成の充実・改善は、関係者各位の不断の努力により常日頃より取組まれてきたが、この度の国家戦略特区による獣医学部新設の事案から思うに、これまで獣医学教育関係者が取組んできた努力と成果が社会全体に理解されてなく、今後は獣医界あげての獣医学教育学会設立の必要性を強く感じた次第である。

現在、日本獣医師会及び全国大学獣医学関係代表者協議会の呼びかけで獣医学・獣医療に携わる諸団体である獣医系大学間獣医学教育支援機構・全国農業共済協会・全国家畜衛生職員会・全国公衆衛生獣医師協議会・日本獣医学会とともに、獣医学実践教育推進協議会の設立を目指している。一方、私立5大学で構成する一般社団法人 日本私立獣医科大学協会(法人私獣協)は、平成27年9月の総会で獣医学教育学会立ち上げの検討を行っている。願わくは関係者が一体となり強い連携の下、さらに多くの獣医学・獣医療関係団体に働きかけを行い、これまで幾度か提案されいまだ実現に至ってない獣医学教育学会の早期の設立を願うものである。

<sup>†</sup> 連絡責任者：政岡俊夫 (学麻布獣医学園)

〒252-5201 相模原市中央区淵野辺1-17-71

☎ 042-754-7111 FAX 042-754-7661

E-mail: masaoka@azabu-u.ac.jp